

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校
校訓 自主・自律 協同

新座市立第四中学校学校だより 令和6年2月1日 第11号
TEL 048-477-6053 URL <https://j-daiyon-c-niiza.edumap.jp/>



まず考え、そして一步を踏み出す

校長 鮫島 弘樹

高い場所から街の全景を収めた一枚の写真に、私たちにはあまり馴染みのない、特徴的な山の姿が写り込んでいます。

手前の街と奥に写る山に挟まれるように、青い海が細長く広がっており、そこが鹿児島県の街と桜島なのだと分かります。

別の写真には、やはり高い位置から撮影された、愛媛県松山市内の様子が記録されています。

その2枚の古い写真には、街といっても辺り一面見渡す限り焼け野原である、という共通点があります。

私の手元に、一冊の本があります。

「AI とカラー化した写真でよみがえる戦前・戦争」（光文社新書）というタイトルのとおり、当時撮影されたモノクロ写真をカラー化した、戦争の記録です。

当時を知る方々などからの様々な証言や情報を基に、最新のAI技術による彩色と、地道な補正を繰り返したそうです。

黒と白だけで表現された昔のモノクロ写真は、どこか現実から遠く、別の世界の記録のように感じざるを得ません。

ところが、そこに鮮やかな色彩が付された途端、写真の中にいる人々の活気や生活の匂いなどが、たちまち身近で現実感のあるものに一変するのです。

着ている服や髪型に多少の違いがあるものの、戦前の街のにぎわいや、花見を楽しむ家族の姿などは、現代とそれほど違いがないような親近感を覚えます。

冒頭の2枚は、いずれも空襲によって焼き尽くされてしまった街の記録です。

人災である戦争と、自然による災害では根本的な違いがあり、引き合いに出すのははばかれる気持ちもあります。

しかし、カラー化されて現実感のある2枚の写真と、この度の地震により焼けてしまった輪島市の姿が、私の頭の中ではどうしても重なってしまうのです。

鹿児島も松山も、現在の写真と見比べると、変わらないのは山の稜線だけです。

今ではどちらも観光地として人気の、にぎわいのある街として発展しています。

輪島のみならず、地震によりご家族を失い、日常の生活を奪われた方々の心中をお察しすると、胸のつぶれる思いです。

被災された北陸の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

空襲によって焼き尽くされた街のように、これまで私たちはどんなに辛い思いをしても、どれほどひどい目にあっても、いずれまた立ち上がり、日常生活や明るさを取り戻してきました。

極寒の地で心細く、不便な生活を強いられている方々の現実を想像してみます。

その皆さんが再び立ち上がり、日常生活や明るさを取り戻すために、何ができるかをまず私たち一人一人が考え、自分なりの考えに基づき、具体的な一步を踏み出すことが大事だと考えます。

私は今、北陸の方々を支援する手立てを思案することと併せて、第四中を預かる立場として、改めて本校の防災体制について、見直しを進めているところです。